

教材名：山に来る資格がない

主題名：節度ある生活

内容項目： A — (2)

ねらい：5人の言動について考えることで、一時の衝動や欲望に負けず、節度ある生活を築いていこうとする道徳的態度を育てる。

	教材の話の流れ	登場人物について	授業者としての捉え
序盤	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の登山について説明。 先生から明日に備えて早めに寝るように指示を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> すぐには眠れない。 	<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行や遠足など、話を読んでいる生徒にとっても五人の気持ちには共感出来るものがある。
中盤	<ul style="list-style-type: none"> 眠れないため、トランプで遊ぶ許可を先生からもらうために、先生が納得する理由を五人で考える。 	<p>大木：寝てもすぐ起きなければいけないから、起きているほうがいい。</p> <p>石山：夜、トランプをして楽しむのも、今回みんなで山に来た目的に合っている。</p> <p>川田：ぼくたちは体力もあり、足も強いので、それを試してみるいい機会だ。また、苦しいのを頑張り通せば、忍耐力を養うことにもなる。</p> <p>長野：先生に、ああしろ、こうしろと、寝る時間から起きる時間まで指図されるのは、小学生みだいだ。もう中学生なのだから、もっと自由にさせてほしい。</p> <p>水谷：賛成。自由が欲しい。しかし、騒いで他の人たちに迷惑をかけるようにしよう。</p> <p>長野：もし落伍者が出ても、ぼくたちのことはぼくたちで助け合って、誰にも迷惑をかけないようにすればいい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 五人は一時の感情に流され、衝動や欲望の赴くままに行動している。 みんなでそれらしい言い訳を考えているが、どれも浅はかな考えである。 自分たちに都合のいいように解釈している。 「苦しくなる」ことがわかっている。つまり「十分な睡眠を取らなければ翌日の登山に差し支えがある」とはわかっている。 「誰にも迷惑をかけなければいい」という甘い考えがある。
終盤	<ul style="list-style-type: none"> 翌朝、予定どおり出発したが、五人の足取りは次第に鈍くなり、疲れが目立ってくる。 何とか最後まで歩き切ったことに五人は満足感を感じる。 他の友達も「よく歩いた」「すごい忍耐力」と感心している。 1班の班長は「山に来る資格がない」ときっぱり言う。 	<ul style="list-style-type: none"> 結局夜更かしをする。 体調がどんどん悪くなる。 何とか最後まで歩き通す。 五人は満足感を感じる。周りの人も「よく歩いた」と称賛する。 1班の班長にだけ「山に来る資格がない」ときっぱり言われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 五人は何とか歩き通し、周りの人も称賛してくれているが、認めて良いものではない。 「山に来る資格がない」という班長の発言を踏まえ、「五人の行為を踏みとどまらせる」ための言動を考える。 「五人の行為を踏みとどまらせる」ことができない場合、「自分はどうするのか」とさらに考える。

養う道徳性に関わるキーワード等（何を捉えられるようにしたいか）

- クラスの人に迷惑をかけるわけにはいかない。
- 山登りは体力を使うし、明日に備えて早く休もう。
- 寝不足はケガのもとだ。
- 山登りを甘く見ていた。自分たちの体力を過信していた。
- 山登りを満喫するために、体を十分休めておく必要がある。